

(別添4)

【仙台市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市では、文部科学省のGIGAスクール構想を踏まえ、令和5年3月に「仙台市学校教育情報化推進計画」を策定し、4つの基本方針をもとに学校教育の情報化を推進している。

GIGAスクール構想により整備したICT環境を最大限に活用し、児童生徒が自ら学習を調整しながら学んでいく「個別最適な学び」を充実させること。また、教員と児童生徒の関わり合いや、児童生徒同士の対話・考えの共有・協力を通じた学びなど、多様な価値を認め合い、新たな価値を創造する「協働的な学び」を充実させることで、必要な資質・能力の育成を目指していく。

2. GIGA第1期の総括

これまで整備した1人1台端末を活用し、本計画に基づいて様々な取り組みを行い学びの機会を得ることができた。以下、これまで取り組んできた内容を基本方針1～4に分類し示した。

また、授業以外（家庭学習、委員会活動や児童会・生徒会など）でも多く利用される機会が増え、情報化社会で生活するための情報リテラシーや情報モラルの知識・技能、態度を身につけることができたと考えている。

○基本方針1

「児童生徒が、ICTを適切に使いこなし、生涯学び続けるための資質・能力の育成」

ICTを積極的に活用し、情報活用能力の育成や、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善など学習活動の充実を図り、生涯学び続けるための資質・能力を育成する取組

- ・ 端末を活用した授業づくり
- ・ 「情報活用能力育成の年間指導計画」作成
- ・ 授業支援ツール導入・活用
- ・ デジタルドリル導入・活用
- ・ 生成AIのガイドライン作成
- ・ 1人1台端末とクラウド環境を活用した効果的な教育実践のモデル校の募集

○基本方針2

「教員のICT活用指導力を高めるための支援体制の充実」

全ての児童生徒に等しく情報活用能力を育成する素地を培うため、あらゆる教職員がICTを活用して指導する力を身に付けられるよう、研修の充実や支援体制の強化等

- ・ ICT活用教員研修（オンライン・訪問・参集）
- ・ ICT支援員の導入・運用
- ・ 各種設定支援（オンライン・訪問）
- ・ セキュリティ研修の実施
- ・ 校長研修の実施

○基本方針3

「ICTを活用するための環境整備」

児童生徒の学習活動の充実を図るため、教育データの利活用や教員の多忙化解消に向けた環境整備

- ・ ネットワーク強化
- ・ 体育館Wi-Fi整備
- ・ 指導者用デジタル教科書の配付
- ・ VR教材の開発
- ・ ネットワークが環境がない家庭への支援

○基本方針4

「学校情報化の推進とICT 活用の推進体制構築」

校務のデジタル化など、学校における働き方改革の実現に向けた取組を進めるとともに、ICT を活用した教育の推進のために必要な体制を整備

- ・ 仙台市GIGAスクール協議会の設置、運営
- ・ 学校と保護者の連絡ツール導入
- ・ MEXCBTの活用
- ・ Webページによる情報提供
- ・ 自動集計ソフト導入、活用
- ・ 学習eポータルへの導入、活用

次の3点が課題である。

- ・ 児童生徒にかかわる学習履歴などのデータを利活用するための教員スキル向上
- ・ 児童生徒がストレスなく1人1台端末を活用できるネットワークの大幅な強化
- ・ 学校種・学校間・年齢差等による教員のICT活用指導力の格差

その対策として、以下の2つの対応を進める。

- ・ データを利活用する教員のスキル向上およびICTを活用する指導力向上を目指し、教員研修だけでなく、学校・校種を越えた教員同士が気軽に、相談・助言・意見交換ができるコミュニティ環境整備を図る。
- ・ ネットワークアセスメントを定期的実施し、課題が明らかになった場合には、当該課題の解決と実施スケジュールを作成し計画的に改善を図っていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

令和7年度に1人1台端末の更新を行い、児童生徒のさらなる「個別最適・協働的な学びの充実」と「学びの保障」を進め、学びの充実を図る。

児童生徒の効果的な利活用推進に向け、次の点について取り組んでいく。

- ・ 1人1台端末の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェアだけでなく、児童生徒が自ら考え主体的かつ協働的に学べる授業支援ソフト、理解度に合わせて出題する個別最適な学びができるデジタルドリルなどを活用し、その活用によって得た学習履歴の情報を利活用することで、授業支援をより効率的に行い個に応じた指導をこれまで以上に充実させる。
- ・ 児童生徒が1人1台端末を日常的に活用し、「個別最適・協働的な学び」をさらに充実させるため、自分で調べたり、考えをまとめ、発表・表現したり、「生徒同士」「教職員と生徒」で双方向でのやりとりをする場面を授業に取り入れ、学びの推進に取り組む。
- ・ ICTを活用した効果的な授業を推進するために、学校種・学校間・年齢差等による教員のICT活用指導力の格差を縮減させるとともに、これらの差を越えた教員同士の学びを充実させ授業改善を進める。
- ・ 多様な児童生徒の学びを保障するために、学習支援や学校生活のサポートなど実態に応じた支援を推進する。

これらの取組を推進するため、1人1台端末を活用した望ましい学習環境を構築するために、1人1台端末の整備・更新およびネットワーク環境のネットワークアセスメントも継続して行い、児童生徒が1人1台端末を快適に利用できるように環境を維持していく。